平安時代

名前

問1　平安時代中期、藤原道長や頼通の親子は、自分の娘を天皇の后とし、生まれた子が天皇になると、その外戚として政治の実権を握った。天皇が幼いときは摂政、成長してからは関白の職について行われたこの政治形態を何というか。（2024年 青森県公立入試 類似）

1. 院政
2. 武家政治
3. 執権政治
4. 摂関政治

問2　平安時代の仏教に関する記述のうち、最澄と彼が創始した宗派について正しく述べているものはどれですか。（2019年 三重県公立入試 類似）

1. 唐から帰国後、高野山に金剛峰寺を建立して、真言宗の教えを広めた。
2. 唐から帰国後、比叡山に延暦寺を建立して、天台宗の教えを広めた。
3. 遣隋使とともに中国へ渡り、日本で初めてとなる本格的な仏教の戒律を伝えた。
4. 全国を行脚して治水工事や橋の建設を行い、庶民から「行基」と慕われた。

問3　平清盛は、かつての藤原氏が行った摂関政治の手法を取り入れて、自らの権力基盤を強化しようとしました。その具体的な方法として正しいものを選びなさい。（2020年 佐賀県公立入試 類似）

1. 諸国に守護や地頭を設置し、地方の軍事・警察権と徴税権を掌握した
2. 御成敗式目を制定し、武士や貴族の間に共通の裁判基準を設けた
3. 大名や豪商に海外渡航を許可する朱印状を与え、貿易の利益を独占した
4. 自分の娘を天皇の中宮（きさき）として入内させ、天皇との親戚関係を築いた

問4　平安時代の国風文化を象徴する、日本の風景や人物を明るい色彩で描く独自の絵画様式を何といいますか。また、この様式で『源氏物語』の名場面を描いた作品の名称として正しいものを、次の語句から選びなさい。（2020年 奈良県公立入試 類似）

1. 大和絵 ・ 枕草子絵巻
2. 浮世絵 ・ 源氏物語絵巻
3. 大和絵 ・ 源氏物語絵巻
4. 唐絵 ・ 枕草子絵巻

問5　歴史の年表において、藤原氏が摂政や関白として政治の実権を握り、各地の荘園を基盤に勢力を拡大していた平安時代中期の項目があります。この時期に、それまでの中国文化の影響を土台としながらも、日本の気候や日本人の感性に合わせた独自の工夫が加えられて発展した文化を何と言いますか。（2021年 岡山県公立入試 類似）

1. 鎌倉文化
2. 天平文化
3. 国風文化
4. 東山文化

問6　平安時代の外交と文化の変化について、894年に菅原道真が遣唐使の中止を建議した背景とその後の影響を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2018年 岐阜県公立入試 類似）

1. 国内での仏教振興が十分に進んだために行われ、この中止によって平氏に代わる源氏の勢力が地方で急速に拡大することになった。
2. 聖徳太子以来の仏教中心の政治を否定するために行われ、大陸との交流を完全に断つことで平清盛による武家政治が始まるきっかけとなった。
3. 宋との日宋貿易を独占的に開始するための準備として行われ、貴族の間で中国の文化をそのまま取り入れる傾向が一段と強まった。
4. 唐が衰退して日本が学ぶべきことが少なくなったことや往復の危険が理由であり、中止後は日本独自の「国風文化」が発達する一因となった。

問7　平安時代の政治体制は、天皇や貴族の勢力関係の変化に伴い、大きく3つの時期に分けることができます。空海が唐から帰国して真言宗を開いた時期以降の政治の変遷について、時代順（古い順）に正しく並べたものはどれですか。（2021年 熊本県公立入試 類似）

1. 桓武天皇による国司の監督強化、白河天皇による院政、藤原道長らによる摂関政治
2. 藤原道長らによる摂関政治、白河天皇による院政、桓武天皇による国司の監督強化
3. 桓武天皇による国司の監督強化、藤原道長らによる摂関政治、白河天皇による院政
4. 白河天皇による院政、桓武天皇による国司の監督強化、藤原道長らによる摂関政治

問8　桓武天皇の政治改革について記された資料において、都の移転による政治の立て直しと並行して行われた、東北地方への支配拡大に関する説明として正しいものはどれですか。（2020年 香川県公立入試 類似）

1. 坂上田村麻呂を征夷大将軍に任命し、蝦夷と呼ばれた人々を服属させて支配を広げた。
2. 地頭や守護を各地に配置することで、軍事的なネットワークを構築し地方統治を安定させた。
3. 東大寺の建立を通じて、仏教の力で東北地方の民衆を教化し、国家の安定を図った。
4. 防人や太宰府の機能を強化し、大陸からの侵略に備えて東北地方の警備を厳重にした。

問9　平安時代中期の地方統治において、朝廷が国司に強い権限を与えるようになった歴史的な背景として、正しいものはどれか。（2016年 広島県公立入試 類似）

1. 大規模な海外貿易が始まったことにより、港を持つ地方都市を直接管理する官吏が求められたため。
2. 鎌倉幕府が守護・地頭を設置したため、対抗措置として朝廷も地方行政を強化する必要があったため。
3. 刀狩や検地が行われたことで兵農分離が進み、武士ではない専門の行政官が必要になったため。
4. 戸籍に基づき土地を分ける班田収授の仕組みが行き詰まり、国司に徴税を請け負わせる必要が生じたため。

問10　国風文化の特色を示す具体的な事例として、当時の文学や美術の様子を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2015年 富山県公立入試 類似）

1. 聖武天皇の時代に、仏教によって国家を守るために東大寺の大仏などが造られた。
2. 武士の精神を反映し、力強い彫刻や運慶・快慶による金剛力士像が作られた。
3. 漢字を簡略化した「かな文字」が普及し、女性による日記や物語などの文学作品が多く生まれた。
4. 禅宗の考え方が広まり、墨一色で自然を描く水墨画や、石と砂で自然を表現する庭園が作られた。

問11　10世紀から11世紀にかけての日本の文化において、漢字を簡略化して作られ、貴族の生活や感情を自由に表現することを可能にした文字と、その文字を用いて執筆された文学作品の組み合わせとして適切なものはどれですか。（2023年 福岡県公立入試 類似）

1. 万葉仮名 ― 『万葉集』や『日本書紀』
2. カタカナ ― 『徒然草』や『平家物語』
3. ハングル ― 『奥の細道』や『曽根崎心中』
4. かな文字 ― 『源氏物語』や『枕草子』

問12　平安時代に、日本の自然環境や当時の支配階層の生活スタイルに合わせて発展した住居のあり方について述べたものとして、最も適切なものはどれですか。（2016年 京都府公立入試 類似）

1. 農民の住居として、防寒を重視した竪穴住居が依然として主流であった。
2. 貴族が住んだ寝殿造は、池のある庭園に面した開放的な邸宅であった。
3. 武士が住んだ書院造は、畳を敷き詰め床の間を設けた邸宅であった。
4. 町人が中心となって、通りに面した間口が狭く奥行きが深い町屋が普及した。

答え合わせ・解説

問1	答え 4 摂関政治	藤原氏が「摂政」と「関白」という重要な職について行った政治であるため、摂関政治と呼ばれます。院政は白河上皇などが天皇を退位した後に行った政治、武家政治は平清盛や源頼朝以降の武士による政治、執権政治は鎌倉幕府において北条氏が補佐役として行った政治です。
問2	答え 2 唐から帰国後、比叡山に延暦寺を建立して、天台宗の教えを広めた。	最澄は天台宗を、空海は真言宗をそれぞれ唐から伝えました。最澄の拠点は比叡山延暦寺、空海の拠点は高野山金剛峰寺です。この区別は入試で非常によく問われるポイントです。
問3	答え 4 自分の娘を天皇の中宮（きさき）として入内させ、天皇との親戚関係を築いた	平清盛は、娘の徳子（建礼門院）を高倉天皇の中宮（きさき）にすることで、後の安徳天皇の外祖父（母方の祖父）となり、天皇との血縁関係を背景に大きな政治的影響力を持ちました。これは平安時代に藤原氏が摂政や関白として権力を振るった際と同じ手法です。他の選択肢にある御成敗式目は鎌倉時代、朱印状は安土桃山・江戸時代、守護・地頭の設置は源頼朝による事績です。
問4	答え 3 大和絵 ・ 源氏物語絵巻	中国風の「唐絵（からえ）」に対して、日本の風土や人物を題材とした絵画は「大和絵（やまとえ）」と呼ばれます。この大和絵の手法を用い、物語の情景と言葉を組み合わせた「源氏物語絵巻」は、当時の貴族文化の華やかさを伝える貴重な史料です。枕草子は清少納言による随筆であり、浮世絵は江戸時代に成立した様式であるため、混同に注意が必要です。
問5	答え 3 国風文化	894年に遣唐使が廃止されたことで、中国（唐）の文化をそのまま模倣するのではなく、日本の風土や生活に合わせて消化・吸収する動きが強まりました。藤原氏による摂関政治が行われた時期に、貴族を中心に洗練されたこの独自の文化が最盛期を迎えました。
問6	答え 4 唐が衰退して日本が学ぶべきことが少なくなったことや往復の危険が理由であり、中止後は日本独自の「国風文化」が発達する一因となった。	菅原道真は、派遣先である唐の国力が衰えていたことや、航海に伴う危険が大きかったことを理由に遣唐使の中止を提案しました。これにより、それまでの中国文化の影響を強く受けた文化から、日本の風土や生活感覚に合わせた「国風文化」へと発展していく契機となりました。平清盛による日宋貿易は、さらに後の平安時代末期の出来事です。
問7	答え 3 桓武天皇による国司の監督強化、藤原道長らによる摂関政治、白河天皇による院政	平安時代初期、桓武天皇は勘解由使を設置して国司の交代時の不正を厳しく監督し、天皇中心の政治を立て直そうとしました。中期になると、天皇の外戚（母方の親戚）となった藤原氏の道長・頼通親子が摂政・関白として実権を握る摂関政治が全盛期を迎えました。その後、藤原氏を抑えるために白河天皇が位を譲ったあとも上皇として政治を行う院政を開始し、政治の主導権が移り変わっていきました。
問8	答え 1 坂上田村麻呂を征夷大将軍に任命し、蝦夷と呼ばれた人々を服属させて支配を広げた。	桓武天皇は都を移して政治を刷新する一方で、国家の支配領域を拡大するために東北地方への軍事遠征を行いました。坂上田村麻呂が征夷大将軍として派遣され、胆沢城を築くなどして蝦夷の抵抗を抑え、北方の安定を図りました。
問9	答え 4 戸籍に基づき土地を分ける班田収授の仕組みが行き詰まり、国司に徴税を請け負わせる必要が生じたため。	平安時代中期になると、人々の移動や偽りの登録などにより、戸籍に基づいた従来の徴税体制（班田収授法など）が機能しなくなりました。そこで朝廷は、国司に対して「一定の税を納めること」を条件に、現地の統治や徴税方法を自由に決定できる大幅な権限を与える方針転換を行いました。
問10	答え 3 漢字を簡略化した「かな文字」が普及し、女性による日記や物語などの文学作品が多く生まれた。	万葉仮名から発展して「かな文字」が発明されたことで、漢字では表現しきれなかった日本人の繊細な心情を自由に書き表せるようになりました。これにより、紫式部の『源氏物語』や清少納言の『枕草子』といった、世界に誇る女流文学が誕生しました。また、絵画の分野でも、日本の風景や風俗を描いた「大和絵」が描かれるようになるなど、日本的な美意識が確立されました。
問11	答え 4 かな文字 ― 『源氏物語』や『枕草子』	この時期、漢字を崩したり一部を取ったりして作られた「かな文字」が広く普及しました。これにより、漢文では表現しにくかった微妙な感情や宮廷生活の様子を表現できるようになり、紫式部による物語文学や清少納言による随筆など、日本文学の傑作が数多く誕生しました。
問12	答え 2 貴族が住んだ寝殿造は、池のある庭園に面した開放的な邸宅であった。	平安時代中期以降、中国の影響を強く受けた文化から、日本の独自性を生かした国風文化へと変化しました。寝殿造は、その象徴的な住居様式です。選択肢にある書院造は室町時代に登場した様式であり、町屋の発展は後の時代である江戸時代の商業発展と密接に関わっています。